

慶應義塾大学

ヘルスケア関連データを JDBC Driver for XML で Tableau に直接インポート

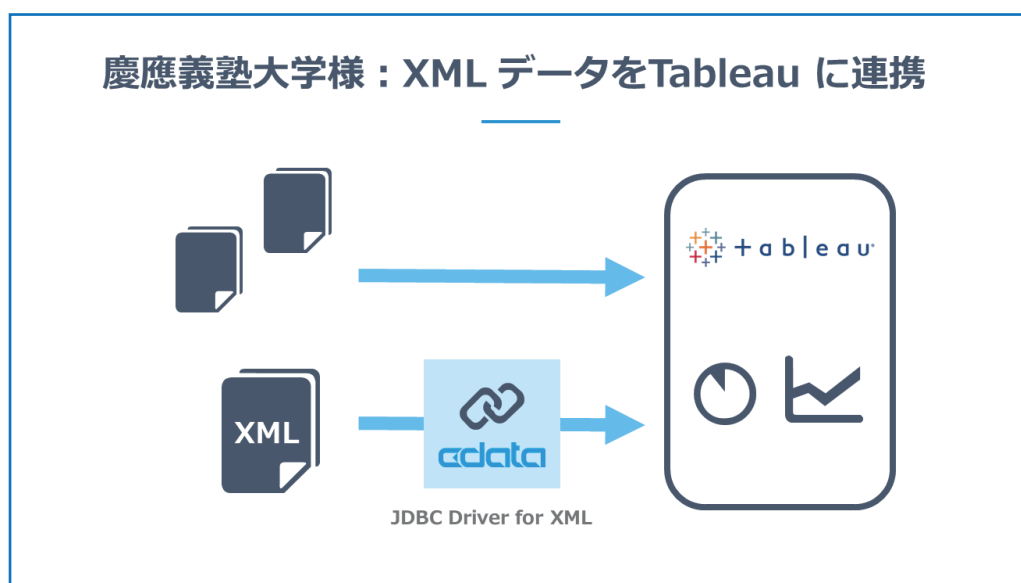
慶應義塾大学では、2040 年に想定される多様な社会課題の解決に向け、分野融合的な研究開発をする『2040 独立自尊プロジェクト』を掲げています。ヘルスケア関連データを Tableau で可視化、分析するにあたり、データ取り込み部分に CData JDBC Driver for XML を採用、開発工数の削減を実現しました。

Challenges

- ・ デバイスなどから取得したデータの分析
- ・ XML データの Tableau へのインポート
- ・ 短期間での導入

Solutions

- ・ ダイレクトな Tableau のデータ取り込みを実現
- ・ データ形式変換の工程を省略
- ・ ノーコードで連携



本件導入を進められた慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート 特任教授 鳥谷真佐子氏にお話を伺いました。

Q: どのような経緯で本プロジェクトが始まったのでしょうか？

鳥谷氏：慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート 2040 独立自尊プロジェクトでは、労働人口の急減、被介護者の増加、社会保障費の増大など、2040 年に起きてくるであろうさまざまな社会課題の解決に向け、分野融合的な研究開発を進めています。

2040 独立自尊プロジェクトの一部である『健康寿命延伸プロジェクト』では、2040 年の超高齢化社会における健全なる健康寿命延伸を実現するため、さまざまな研究シーズを活用したヘルスケアサービスを想定し、それらを相互運用可能な形で連結する社会アーキテクチャの設計を目指しています。

Q: Tableau での分析においてどんなボトルネックがありましたか？

鳥谷氏：健康に関する社会課題分析やヘルスケア関連データ分析をするために、行政データやデバイス、カメラで取得した個人の健康状態や体の動きのデータを Tableau に取り込み、解析や可視化することがあります。しかし、データのなかには XML 形式のデータもあり、Tableau で読み込むにはデータ変換が必要でした。そのため XML データも他のデータのように Tableau で読み込めれば、効率よく分析作業を進めることができると考えました。

Q: 連携に CData JDBC Driver for XML を選ばれた理由は？

鳥谷氏：XML データを Tableau にインポートする方法を検索してみました。簡単にできる良い手段がないか調べた結果、CData の JDBC Driver for XML を見つけました。トライアルが提供されていたので早速ダウンロードして試してみたところ、XML 形式のファイルをそのまま読み込むことで、Tableau からテーブルデータとして使うことができました。非常に簡単に XML データを取り込むことができたので、購入を決めました。また、Mac 向けのコネクタも用意されていたため、すぐに始めることができました。

Q: 実際に CData Driver を使われた感想は？

鳥谷氏：最初は、バージョンの違いにより少し戸惑った点はありませんでしたが、サポートの方に非常にわかりやすく説明、また根気強く付き合っただき、導入することができました。一度インストールできてしまえば、使い勝手は非常に良いです。



慶應義塾
Keio University

慶應義塾大学
所在地：東京都港区
設立：1858 年

同社ウェブサイトより

CData は、米 CData Software, Inc. の登録商標です。他社製品名などは各社の商標です。
掲載内容は取材当時の情報です。